

# 新型コロナウイルス感染から くらしと雇用・経済を守るため 全力をつくします

みなさんの声などお寄せください。と一緒に解決に力をつくす決意です

新型コロナウイルス感染の拡大をふせぎ、県民のくらしと経済を守ることが喫緊の課題になっています。日本共産党県議団は、コロナ対策を万全にすることを申し入れる(1月31日)など、節々で県への働きかけをしてきました。県は3月議会に、コロナ対策の追加議案を提出し、3月23日に質疑が行われました。よしまた県議が質問し、商店街、浅虫温泉旅館、小学校、医療機関・従事者を訪ね、実情と要望を聞いたことを紹介し、県民を守るために総力を尽くすように求めました。

学校

## 子どものため 丁寧に柔軟な対応を

安倍首相がいっせい休校要請をした翌2月28日、県教委に対し、「子どもたちの健康と安全を最優先に、実情に即した丁寧な対応を」と申し入れを行いました(写真)。



県教育委員会に申し入れる、よしまた県議(右)ら=2月28日

休校の判断をする場合、学校再開の判断基準を明確にするためにも、休校の必要性和効果について根拠を持つことが大事です。また、保育所や放課後児童会の対策、子どもの心身へのケア、勉学への支援、親の仕事への補償など、休校にともなうさまざまな影響に対する補償や手立ても必要です。

文部科学省が3月に出した学校の再開・休業のそれぞれについてガイドラインにそって判断し準備することが求められています。

医療体制

## 医療体制の構築を 急いでふさわしい規模に

よしまた県議は3月23日、コロナ関連議案に対する質疑のなかで、医療体制の問題を問いました(主な項目は右記)。厚生労働省が示した数式で見ると、青森県のピーク時の想定数(1日あたり)は、外来受診4,434人、入院2,556人、重症者85人となります。医療機器の態勢も病床の確保も、この規模にふさわしい準備する必要があります。

### 質疑で提起した項目

- 人工呼吸器や防護具など、医療機器の準備を、ピーク時を想定した規模にいち早く
- 事態の推移に即して、感染者の症状に応じた受け入れ体制の構築・調整を
- コールセンターに寄せられた声を大事にし、県の対策に生かすこと
- 保健所の人員と予算の投入を抜本的に強める

3月27日には、あおり協立病院など県内医療機関などが加盟する民医連が県に申し入れを行いました(写真下)。



民医連青森県連の県への申し入れに同席する、よしまた県議(右)ら=3月27日

くらし  
営業

## 自粛と補償を一体に 倒産も雇い止めもさせない立場で

感染防止を目的に、自粛と補償をセットで打ち出すことが求められています。

「安倍首相がイベントの自粛要請をした次の日から、キャンセルのFAXが次々と。気持ちがふさぎ込み、絶望の毎日だった」——よしまた県議は3月23日の質疑のなかで、業者の不安の声を紹介しながら、「中小業者と地域経済を守るため、

『倒産させない』『雇い止めをさせない』という立場で、あらゆる手立てをとるべきだ」と県の対応を求めました。

県は、経営安定化サポート資金の災害枠を拡大し融資枠を増やすなどしています。よしまた県議は、上表のように要望しました。

この問題について三村申吾知事は4月3日の記者会見で、「資金繰りは何より重要。県と市町村で限りなくゼロ保証料、ゼロ金利にもっていきたい」と表明しました。

### 県の融資支援への改善要望

- 「借入れが困難」の声も多い。融資への支援は第一歩であるが、さらに直接支援に踏み込むこと
- 融資支援は次の2つの改善を。①利率0.9%をゼロにすること、②据え置き期間を延長すること
- 業者の相談には親身に応じるように



コロナ対策関連議案の質疑にたつ、よしまた県議=3月23日



日本共産党  
県議会議員

よしまた洋 活動報告

2020年4月号 yoshiyou.com

※本号は、4月3日までの情報をもとに作成しました。

連絡先 日本共産党青森地区委員会(青森市中央3丁目21-15) 017-777-7241 FAX017-775-4553



# 子育て支援充実へ 4つの提案 よしまた県議が 一般質問

3月議会は右のような日程で行われました。議案が91件提出され、すべて原案通りに可決しました。日本共産党は29件に反対し、62件に賛成しました。

よしまた県議は3月5日の一般質問で、子育て支援の提案とともに、核兵器禁止条約やジェンダー平等の課題、新旧運動公園の利活用、原発の規制基準、再生可能エネルギーの普及について取り上げました。また3月19日には、所属する総務企画危機管理委員会でも質問を行いました。

## ①直接支援の抜本的強化を

### ■病児保育の推進

病児保育所への支援を求めました。

### ■子ども医療費無料化の拡充を

県内9割以上の市町村が、入院・通院ともに中学卒業まで無料になっています。この現実を踏まえ、

▼県の医療費無料化対象を拡充すること、▼「自己負担」という名目で市町村の負担になっている部分を廃止すること、▼窓口無料化を理由にした国によるペナルティーの廃止を、など求めました。

### ■給付制奨学金の創設を

高い学費と奨学金の負担が若者の未来を閉ざし、ひいては日本社会の活力を奪っています。他県の事例を紹介しながら、給付制奨学金の創設を求めました。橋本恭男企画政策部長は、「本県の実情にあった効果的で実現可能な方法を幅広く検討していきたいと考えている」と答弁しました。

### 県立中央病院 分べん料を値上げ

現行11万円から15万円への値上げが決まりました。日本共産党は、子育て支援に逆行すると反対。県民主役の県政の会も反対しましたが、自民・公明などの賛成で可決しました。

## ②学校の中に人間らしさを

教職員の勤務条件という面でも、子どもの学校生活という面でも、人間らしく過ごせる学校であることが必要です。

よしまた県議は高校の校則について質問。和嶋延寿教育長は次のように答弁しました。

校則についての教育長答弁

校則の内容については、生徒や学校の実情、保護者の考え方、地域の状況や社会環境の変化等をふまえて積極的に見直す必要がある。見直しにあたっては、生徒の人権に配慮しつつ、生徒が話し合う機会を設けるなど、生徒や保護者の意見を踏まえながら決定することが望ましいと考えております。

## ③学校を安全な場所に

WHOの専門機関によって発がん性物質に分類された化学物質グリホサートを含む除草剤の学校での使用状況についてただしました。

## ④医ケア児への支援体制

医療的ケア児への支援体制のうち、特別支援学校で放課後デイサービスなどの開設を希望する業者が出た場合の対応について質問。和嶋教育長は、「子どもたちの負担がかからない形での様々なサービス提供は必要だと思っている」と答弁しました。

## ●2020年3月議会の日程

2月25日	開会	日本共産党議員の 質問・討論
3月3日～9日	一般質問	よしまた県議（5日）
3月11日	質疑（追加議案等）	安藤県議
3月12日	質疑（既決議案を除く）	松田県議
3月12日	憲法議論を求める 意見書の採択	よしまた県議が反対討論
3月13日～17日	予算委員会	安藤県議（16日）
3月19日	常任委員会	それぞれの議員が 所属する委員会で質疑
3月23日	質疑（追加議案等）	よしまた県議
3月24日	閉会	松田県議が一部反対討論

## 本当に“世界で最も厳しい”のか 原子力施設の規制基準について問う

県は、国の規制基準について「世界で最も厳しい」と評価してきました。よしまた県議はこの点について、事故時の放射性物質の放出（ベント）の問題と水蒸気爆発から機器を守る対策について、一般質問と常任委員会で問いました。

新しい規制基準では、原子炉格納容器に管を通し、事故時に格納容器内の気体を放出することを認めています（ベント）。その際、フィルタをつけず、格納容器内の放射性物質をそのまま放出する方式も可能です。よしまた県議は、「世界で最も厳しい、という実態はない」と厳しく指摘しました。



### 旧 陸上競技場 存続求める声に こたえるべき

安田の陸上競技場を存続するためには、青森市との協力が不可欠です。新井田浩県土整備部長は、耐震調査の結果を青森市と共有し、意見を聞きたい、と答弁しました。

新型コロナウイルスについて、  
相談窓口を紹介します

●一般的な相談や問い合わせは 0120-123-801 コールセンター

●感染が疑われる場合 017-765-5280 帰国者・接触者相談センター（青森市保健所）

※相談の目安などについては、青森市HPを確認ください